Japan Society of Educational Information

沖縄の戦中戦後の子どもの視点からのオーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ化の課題

眞喜志 悦子*1, 照屋 小百合*2, 加治工 尚子*3, 新垣 英司*4,
谷 里佐*5, 稲福 純夫*6, 後藤 忠彦*7

＜概要＞沖縄戦の戦中戦後に小学生であった人に米軍の上陸前後から収容所までの戦争体験を子どもの視点でオーラルヒストリーとしてデジタル・アーカイブ化した。その中から教材として適する素材を抽出し，教材デジタル・アーカイブとしての構成方法について検討を行った。また，これらのデジタル資料を用いたが新しいデジタル教科書の構成の基礎にするための検討を行った。
＜キーワード＞デジタル・アーカイブ，教材，沖縄戦，デジタル教科書

1．戦中・戦後の体験者
～いかに話を残すか～

沖縄戦の戦中・戦後の体験は，同年代の子どもが大人の視点からの話が多く，当時の子どもがどのように受け止め，考えたかという話が教材として重要である。しかし，一般的に戦中・戦後の厳しい状況での体験が話される機会は少なく，また，当時の小学生だった人々は70歳以上になられている。現在，オーラルヒストリーのデジタル・アーカイブとして構成できる時間的な余裕はない状況になってきている。

そこで，30年ほど親交のある仲本實先生に当時（戦中・戦後）の状況をオーラルヒストリーとしてお話をお願いできることになった。このことは，仲本先生のご厚意と，教育者として当時の様子を現在の子どもに残すという思いで可能になったことを一同大変感謝し，また，大切にしたい。

2．仲本先生のオーラルヒストリー

2010年8月11日に仲本先生の第1回のオーラルヒストリーの収録を進めた。

資料を見せながらお話しされた

オーラルヒストリーの構成

仲本實先生のオーラルヒストリーの構成は，次のようである。

1）昭和13～15年頃の生活
2）戦争近づく
3）最初の爆音
4）再び山田国民学校へ
5）10月10日の空襲
6）昭和20年上陸戦争の前触れ
7）4月1日米軍上陸
8）家族は難民収容所へ
9）山中での暮らし
10)米軍の態度がだんだん険悪になってきた
11)石川収容所と終戦
12)宮森小学校時代
13)浮浪者時代終わる

これらの目次に対応し，各章で資料のデジタル・アーカイブを構成した。

岐阜女子大学（沖縄サテライト校）の学生，院生等による撮影

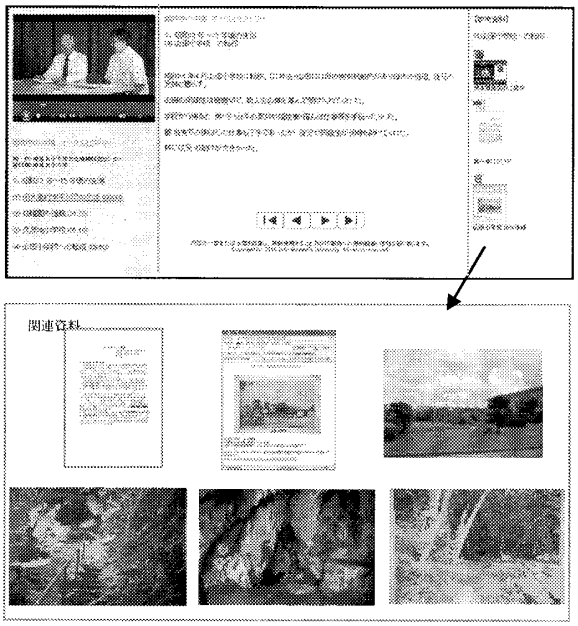
＊1 MAKISHI, Etsuko ＊2 TERUYA, Sayuri ＊3 KAJIKU, Naoko ＊5 TANI, Risa
＊7 GOTO, Tadahiko ：岐阜女子大学 ＊4 ARAKAKI, Hideshi ：沖縄県教育庁中頭教育事務所
＊6 INAFUKU, Sumio ：沖縄女子短期大学

NII-Electronic Library Service

３．デジタル・アーカイブの構成例

オーラルヒストリーの全体的な構成は，前記１）～13)までの各章を一つの区切りとし，さらにその中を細部に分けてリスト化し，各画面の映像の下に目次を表示・構成した。

また，写真のようにオーラルヒストリーの文書は，中央に表示し，関連資料は文書の右側にリスト化し表示した。その内容は関連資料を指示すれば，提示できる。



（１）関連資料の収集と追加

関連資料は，今後，米国・沖縄公文書館を始め各分野での資料の利用，協力をお願いし，また，沖縄関係者による関連資料を追加し，より質の高いデジタル・アーカイブを構成した。

（２）長期保管としての構成

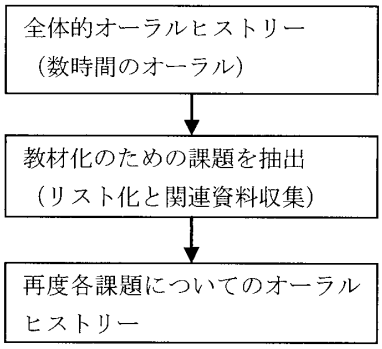
教材化等の利用目的別のデジタル･アーカイブの構成とは別に，長期保存用のデジタル・アーカイブの構成が必要である。とくに，教材化のデジタル・アーカイブは，著作権・プライバシー等の配慮が必要である。（長期保存は，著作権等の関係する 50 年，70 年以上の百年，数百年の保存として，また，研究用として管理する。）

４．オーラルヒストリーの教材化の課題

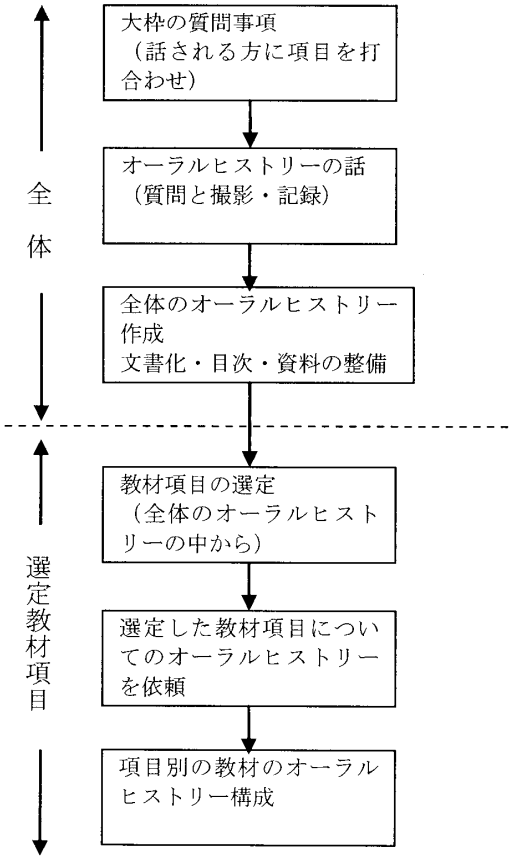
仲本先生のオーラルヒストリーは，数時間の長い映像記録となり，それを教材として直接利用することは困難である。

また，教材化するには，一般的な話から，その具体的な細部の話，さらに，話者が具体的にどのように「受け止め，考えたか」等の情報提供が重要になる。

そのため今回は，仲本先生の全体のオーラルヒストリーからさらに，教材として必要な課題（項目）を抽出し，その具体的な話をお願いした。



※全体のオーラルヒストリーの中から，教材化に適する，あるいは，必要な課題を抽出した。また，オーラルヒストリー以外に，撮影・記録の間の話し合いの中で，重要な事項を話されることも多く，これらも併せて依頼し，話をしていただくことも重要である。



今回，次の課題については，下記に示すよう

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

な事項を依頼した。(今後さらに各課題について依頼する。)

今回は，カンカラ三線や石川収容所（米軍による人々の収容）の中での様子を中心に依頼した。

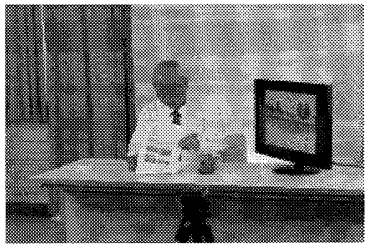
（1）カンカラ三線について
(素材，構造，だれが始めたか等)
（2）石川収容所について
(住居，どんな人々が暮らしていたか等)
（3）学校生活について
(子どもの仕事，遊び等)
（4）舞踊芸能について
(ハンナ少佐と沖縄諮詢会等)
(各課題については，別に報告する。)

1）撮影の様子

撮影のテスト

撮影（照明，音声，表情）のテスト

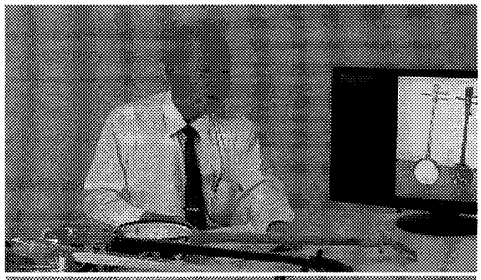
提示資料のチェック

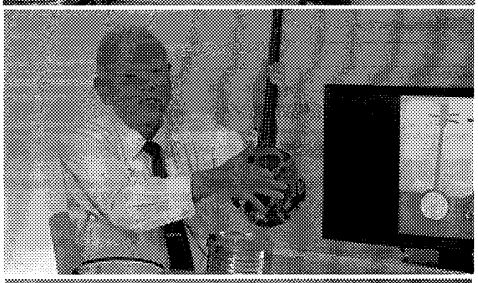


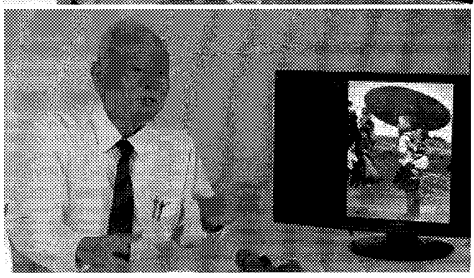
話しの様子

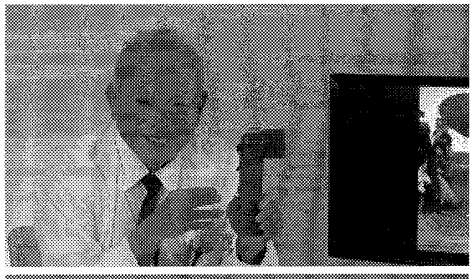
撮影の様子

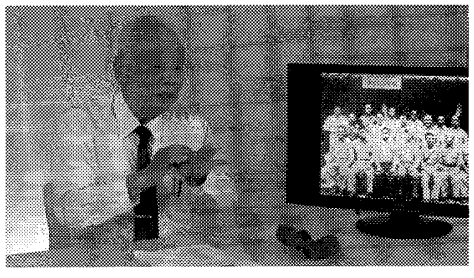
2）仲本先生の話しの様子











NII-Electronic Library Service

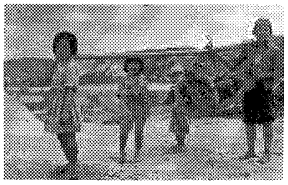
Japan Society of Educational Information

2011年6月26日収録
「沖縄の戦中戦後の子どもの視点からのオーラルヒストリー」より一部抜粋。

～子どもの仕事について～

ほとんどの子，女の子が多かったようですが，こういう風（**写真 1**）に子どもをおんぶしている。要するに子守ですね。あと，薪を集めたり（**写真 2**），色々な仕事をしていました。

（写真 1）子守する女の子



（写真 2）働く子ども

それから，私たちは「特効」と言っていたのですが，トイレを片付ける仕事があったんです。当時は，私たちの集落ではドラム缶を４本から５本を埋めて，その上に板を置いてトイレにしていました。ところがこれは，雨水も入ったりして，貯まるのが案外早いんですね。これを片付けるのが子どもの仕事でした。毎日同じ人がやるのではなくて，当番制でやっていました。「特効」という名前の由来は，最初は臭いからタオルか何かで鼻を覆って担いでいく訳です。そうすると，その辺にいる子が「臭い」といって逃げていく。それが，我々が特攻隊に行くような感じがしたので，特攻と言っていました。それを村はずれの「タードーシ」という田んぼの土をあげて畑にしているところに穴が掘ってあって，（その穴に）それをこぼしていた。この特攻の仕事はいやいやながらにやっていました。このように，当時の子どもの大きな仕事といえば，薪集めだとか，トイレ運び，子守でした。

５．戦中戦後のオーラルヒストリーの教材化の課題

戦中・戦後のオーラルヒストリーには，関連資料の利用や現地の映像の撮影が必要である。また，教材化にあたっては，プライバシー，さらに教材化として適さない資料もあり，教育的に何を削除するかが大きな課題である。

（１）関連資料の整備

戦争関係の映像，写真，文書等が説明に必要であり，これらを収集保存し，提供可能な状況にしておくべきである。岐阜女子大学には，沖縄の映像が１万数千件あり，また，米国公文書館の資料も保存している。今回，これらを利用しデジタル・アーカイブの構築を行った。

（２）教材化でのプライバシー問題

オーラルヒストリーの中には，個人名が多く使われている。現状では話されたままの状態で残しているが，それを学校等で利用するにあたっては，現法下のプライバシー原則等を配慮した形で取り扱わなければならない。今後，オーラルヒストリーのプライバシーに関するガイドライン等が必要である。

（３）教材化に適さない分野

オーラルヒストリーは，可能な限り，話された内容をそのまま記録していて，その中には，現在の社会通念として，さらに，学年によっては適さない事項がある。このため，話の内容によって利用する学年等を決めるガイドラインの設定が必要である。

また，関連提示資料も教材としての注意をすべきである。とくに，戦争中の写真等については，教育的配慮をもって選定する必要がある。

６．おわりに

沖縄戦の戦中・戦後の体験を，オーラルヒストリーとして子どもの視点から記録したり，さらに関係資料を収集・撮影し，デジタル・アーカイブとして構成する試みが，仲本實氏をはじめ，岐阜女子大学沖縄校の学生のおじいさん，おばあさんなどのご厚意により進みだした。

このことは，オーラルヒストリーとして，また，子どもの戦争体験を後世に残すものとして，大変貴重な資料・教材になる。仲本先生との会話の中でふと出た“このような（戦中・戦後の体験の）話は，多くの人は話していない”という言葉通り，自ら第１人称で自分の実体験をどのように受け止め考えたのかを話される人は少ない。我々は，今回の学生のおじいさん，おばあさんが孫に話されるオーラルヒストリーを，貴重な人々の心の財産として大切に記録・保存し，次の世代に伝承しなければならない。

NII-Electronic Library Service